

まえがき

子育て・子育て支援のプロが「プロ」と言える根本は何だろう。それは、どんな時でも「子どもと保護者の**最善の利益を守る**」ために最大の努力を尽くす、ということである。

アマチュアとは信頼度がまったく違う。単なる「子どものお世話」ではないのだ。つねに「**根拠に基づいた確実な実践**」を、持っている力を最大限に発揮して行い、ぜったいに裏切らない仕事をするのがプロである。

そこで注意しなければならないのは、「支援を提供」するのが仕事ではない、という点である。子どもの「**子育て力**」と保護者や社会の「**子育て力**」を引き出す「子どもと保護者、社会の**エンパワメント**（力を引き出すこと、元気にすること）」が本来の仕事である。

だから、さまざまな技術を発揮する**ツール**（道具）を使って、「子どもと保護者、社会がよりよいものを選択する力をつける」ように、「**確実な情報提供**」と「**環境づくり**」をする。

ツールは地図。なんらかの目的を持って描かれた地図全体の中で、見たい対象が「どこ」にあるのかを見定めるめやすである。プロはより多くのツールを持つことで、さまざまな角度から、さらにしっかりと対象を捉えられる。ツールの活用は、子どもや保護者の良し悪しを評価したり、一方的に「これがいい」と押し付けるためでは決してないことを、肝に命じる必要がある。

このテキストの目的は、「**経験的な根拠**」と「**科学的な根拠**」を車の両輪として活用して、子育て・子育て支援のプロに求められる「**質の保障された**」実践に向けての技術を提供すること、すなわち保育の質向上へのパワーアップをすることである。長時間であろうと短時間であろうと、「**保育の質の保障**」は「**子どもの最善の利益**」を守る大前提である。

保育パワーアップ研究会（全国夜間保育連盟ワーキング委員会）では、10年間をかけて「**発達評価ツール**」「**育児環境評価ツール**」「**保育環境評価ツール**」などを用いた子育て・子育て支援の質向上のための仕組みを作ってきた。これは、全国の長時間保育に携わる保育士、園長の「**経験的な根拠**」を数多く集め、これまでの研究で明らかになっている根拠を加え、実践的な知識の「**科学的な根拠**」の体系を作ったものである。その体系を目安にしながら、より質の高い子育て・子育て支援に向けた実践での活用の方法を紹介した。

本書は、3つの柱から構成されている。

まず第1の柱として、根拠に基づく実践の基本的な考え方や方法をあげた。第1章では、「子育て・子育てエンパワメントへの根拠に基づく実践」として、根拠に基づく実践の意義や実践に生かす方法、第2章では、「根拠に基づく実践のツール（道具）」として、具体的にわれわれが活用している「**発達評価ツール**」「**育児環境評価ツール**」「**保育環境評価ツール**」について解説した。

ついで第2の柱として、根拠に基づく実践への具体的な活用例をあげた。第3章では、「根拠に基づく気になる子どもへの実践例と評価」として、気になる子どもへの対応、他機関との協働について、具体的な事例をあげて説明した。第4章では、「根拠に基づく実践ツールの活用法」として、育児相談、保護者や専門職間、他施設機関や多職種間との情報共有、所内研修や事例検討会に活用する方法を具体的に紹介した。

最後に第3の柱として、根拠に基づく実践の蓄積の意味と今後の展開についてあげた。第5章では、「根拠に基づく実践を展開するために」として、10年間の実践的で継続的な取り組みの成果から、さらなる展開に向けてのポイントについて提案した。

本書が、質の高い子育て・子育て支援のプロを目指す専門職のエンパワメントの一助となれば幸いである。